



【特集1】生きづらさを共に…2 【特集2】よりせい、つながる地域の居場所…5

kyoto ころろつながるプロジェクト

誰ひとり取り残さない社会をめざして～京からふたたびつながる～

10月にシンポジウムなど様々なイベントを行います。

詳しい情報は、kyoto ころろつながるプロジェクト特設ページから！



kyoto
ころろつながる
プロジェクト

「kyoto ころろつながるプロジェクト」は、京都市社会福祉協議会、各区社会福祉協議会が、すべての人が支え合いながら共に生きていく地域共生社会を目指すための取組です。

生きづらさを共に

地域には、自分から社会とつながることに難しさを感じている方や、社会での生きづらさを声に出しにくい方がおられます。

参加支援部では、面談や訪問、外出の同行等を通じて、それらの方々の気持ちに寄り添っています。ご本人の持てる力をもとに、問題を一つひとつ解きほぐし、問題解決に向け、以下の事業で地域や関係機関と協力して支援をしています。

その人らしく地域で暮らせるお手伝い

地域あんしん支援員

いわゆる社会的孤立等の状態にあり、福祉的な支援が必要でありながら既存制度や地域だけでは対応が困難な方に対し、地域あんしん支援員はご本人の思いを丁寧に受けとめ、人や地域とのゆるやかなつながりを取り戻しつつ、福祉的支援に結びつけられるよう、行政等の関係機関や地域との連携のもと、寄り添い支援を行います。



ひきこもり支援の第一歩

よりそい・つなぐ相談窓口

京都市内在住のご本人やご家族等から、ひきこもりに関する相談を年齢問わず受けつけ、不安や困りごと、思いを受けとめています。相談内容に応じた情報提供や、区役所・支所保健福祉センターを中心とした支援機関との連携により、必要な支援に繋がります。



本人と一緒に考え、寄り添う

よりそい支援員

行政等の関係機関と連携し、ひきこもっている方やそのご家族の思いに丁寧に寄り添い、マラソン走者の伴走をするように、ご本人のペースを大切にしながら支援をしています。外出ができない方には訪問をし、継続した面談を通してご本人の思いをお聴きします。また、ご本人の思いや希望の実現に向けて一緒に考え、一緒に前進します。



就労への思いを後押し

チャレンジ就労体験

体調や人と関わることへの不安等により一歩が踏み出せず、すぐに働くことが難しい方に、就労体験の機会を提供することで、自立に向けたステップアップをサポートしています。ご本人の特性やペースに合わせた体験を通して、ご本人が今ある力を発揮し、社会の中でその人らしく暮らしていけることを目指して、関係機関と連携しながら支援しています。



支援の例

たくさんの物であふれた家のご相談



民生委員の声：

「お家の方とほとんど会えず、心配していましたが、家も片付き、定期的にお話にも行けるようになったので、安心です。」

長い間外出できなかった方のご相談



ご本人の声：

「将来のことを考えると不安で、親ともその話がでえず、喧嘩ばかりしていました。今は、就労に向けて一歩踏み出すことができたので、うれしいです。」

チャレンジ就労体験から 調理員として活躍！

市社協が運営する施設では、これまで生きづらさをかかえながらも就労を希望する多くの方を体験者として受け入れてきました。施設では、体験者と相談しながら清掃等の作業に取り組んでもらっています。施設での作業を通して、社会との関わりを持ち、そのまま体験先の施設で就労されることもあります。

▶ある体験者の体験の様子

参加支援部のよりそい支援員が伴走支援している方が、今年の初めからチャレンジ就労体験に参加され、約3か月間、デイサービスセンターで週2日、送迎車両や浴室の清掃に取り組まれました。体験に慣れた2か月目には、「最初の頃、掃除の仕事は初めての経験で疲れたが、日数を重ねるごとに次はこうしようとか、こういう手順で仕事をすると早く出来るとか、黙々と仕事をすることが楽しくもありました。」と話され、施設で仕事することにやりがいや楽しさを感じられるようになりました。

▶将来に向けて

この方の目標は、「自立すること」で、そのためには就労し、収入を得ることが必要でした。「体験を通して仕事の楽しさが分かった。」とのことで



したが、掃除の仕事は将来の仕事としては希望ではなかったため、施設の厨房での調理業務を見学することになりました。見学後、興味はあるが自信がない様子でしたが、体験最終日の面談では、「調理の仕事に興味がある。頑張りたい。」との話がありました。

現在では、調理員として週2日勤務し、1か月が経過しました。利用者の昼食の盛り付けなど調理補助から取り組んでおられます。

デイサービスセンターでの 主な体験メニュー

- 送迎車両の清掃
- 浴室、トイレ等の清掃
- 備品、設備の消毒
- 食事準備、配膳
- 整髪
- 洗濯干し、畳み
- レクリエーションの補助 等

体験者の声

体験当初は人と接するのが苦手で不安でしたが、仕事を始めて生活リズムも整うし、やりがいも感じて楽しいです。少しずつ慣れていけたらと思っています。厨房の職員さんはお母さんみたいでとてもやさしく教えてくださるので安心して働けます。



生きづらさに 寄り添う

京都市社会福祉協議会では、これからも、本会の事業間連携だけでなく、多様な主体との連携と協働の中で、生きづらさをかかえる方がその人らしく地域の一員として暮らしていけることを目指して、丁寧に寄り添いながら支援を実施していきます。

京都市内のデイサービスセンター17か所、ケアプランセンター12か所、地域包括支援センター5か所、ショートステイ1か所、小規模多機能居宅介護1か所、グループホーム1か所の運営管理をしています。

よりそい、つながる地域の居場所

私たちは、長い人生において、時にはつまづいたり、誰かの助けをかりないと起き上がれなかったりするようになつらいこともあります。ましてや今の社会は、思いがけないことが起こると、あっという間に生活が成り立たなくなることも。京都市の社協は、そんなときに強がらず、違いや弱さを出し合い、支え合って生きていける「場」を大事にしたいと考えています。今回は、「地域の居場所のこれから」を考えるヒントとなる取組を紹介します。

買い物の拠点が地域の居場所に

買援隊（かいえんたい）

<南区山王学区>

買い物をきっかけに集まる

南区の山王学区では、個人商店の減少やスーパーの撤退等により日常的な買い物をする場がなくて困るとの声をきっかけに、学区内の多様な担い手や団体、福祉事業所、まちづくりアドバイザー、民間事業者、地域支え合い活動創出コーディネーター等が集まる実行委員会「買援隊」が発足。昨年度末より、移動販売の実施とともに、住民同士の交流や活躍の機会を作り出せないかと具体的な検討を重ね、5月から買い物拠点を実現させました。

当日は、「元気にしてた?」「最近どうしてる?」と久々の再会を喜ぶ声が飛び交い大盛況。回を重ねるたびに、

そこで暮らす住民の顔のみえる関係がひろがりつつあります。

知恵を出し合う

「賑わい演出のためにお揃いのエプロンを着よう」「孫と一緒に散歩がてら来るよう呼びかけてみよう」「井戸端会議を楽しめるスペースを設けよう」「手の届かない商品をとる時は手伝おう」「近隣の商店等にも出店を打診し一緒に盛り上げよう」等、様々な知恵を出し合うメンバーたち。買い物を切り口に、年齢問わず暮らしを支え合う輪が広がっています。



テキパキとミーティング



あっという間に地域の方で賑わいます

- ・名 称 買援隊
- ・場 所 希望の家（京都市地域・多文化交流ネットワークセンター）南側駐車場（南区東九条東岩本町 31）
- ・開催日 毎週木曜日 9：20～10：20
- ・申 込 不要（出入り自由）



お手伝いが必要な方にはカゴを持って同行することも

思い思いの時間を過ごす

にこにこカフェ

<右京区>

不安に寄り添えるように

右京区社協では、5 月に誰もが気軽に寄れる居場所を開始しました。

誰かとつながりたい、何かすることがほしい、安心できる居場所がほしいと思っている方がふらりと立ち寄って、誰かと話をしたりコーヒーを飲んでひと息ついたりできる居場所です。

長引くコロナ禍で、孤立しがちな人の不安や困りごとは多様で捉えにくくなっています。そんな中、分野や世代、立場等を超えて、それぞれが自由に居心地のよい時間を過ごしつつ、人との緩やかなつながりを感じられるあたた

かな雰囲気づくりを心掛けて運営しています。

自然に支え合える関係性を

コーヒーを淹れる人、そのコーヒーを味わう人、高校生とコースター磨き作業をする人、おしゃべりを楽しむ人、お手伝いをする人、雰囲気を眺め楽しむ人・・・思い思いに過ごしながらも、多様な人と顔見知りになれる場になっています。

「〇〇をやってみたい」「今度〇〇あるよ」「困っていることがある」「〇〇なら出来るよ」。今後、そんな些細な会話から、支え合える関係性が広がることも期待しています。

- ・名 称 にこにこカフェ
- ・場 所 サンサ右京 1 階
右京区民まちづくり交流拠点「MACHIKO」
(右京区太秦下刑部町 12)
- ・開催日 第 4 火曜日 13:30～15:30
- ・連絡先 右京区社協 075-865-8567
- ・申 込 不要(出入り自由)

それぞれが
心地よく過ごせる場所

ひとりぼっちをつくらないための居場所

フリースペース “たけはな”

<山科区山階学区 × 山科身体障害者福祉会館 × 山科区地域福祉推進委員会>

身近な人たちと顔見知り

山階学区には、福祉施設の休館日を利用して、誰でも気軽に立ち寄り、気軽に過ごすことの出来る場があります。そこは、高齢者、障害のある方、施設のスタッフ等、身近な人とつながる場として運営している「フリースペース “たけはな”」です。

年齢差や障害の有無に関係なく自由に訪れ、好きに時間を過ごし、お互いに認め合えて、心から安心できる憩いの場となっています。

できる人ができることで支え合える場

学区社協、民生委員、老人福祉員、町内会、施設職員等の関わる人々が運営だけでなく、様々なアイデアを持ち寄って盛り上げています。障害者事業所が主催する朝市と同時開催したり、地域活動の参加者等にたけはなの喫茶券を渡す試みを始めたり、多くの工夫がはいっています。身近な地域内の団体や活動、社会資源がつながり、多くの人に届けることで、この場をより充実させています。



コーヒーを
飲みながら談笑

- ・名 称 フリースペース “たけはな”
- ・場 所 山科身体障害者福祉会館 1 階
(山科区竹鼻四丁野町 34-1)
- ・開催日 第 2・第 4 火曜日 10:00～13:00
- ・申 込 不要(出入り自由) ※100 円カフェあり

児童館を中学生・高校生の居場所に！

遊びを通じて児童の健やかな成長を育み、子育て家庭の支援や地域住民との交流をする活動をおこなっています。児童なら誰でも、いつでも! 気軽に!! 遊びに来ていただける施設です。どの児童館でも 5 時から 6 時半までの時間帯を中心に、中学生・高校生が気軽に立ちより自由に使える場所を提供しています。



中学生・高校生の利用の状況を、
いくつかの館から聞いてみました。

仲間でワイワイ楽しい時間を満喫しています

卓球を楽しみに来館していた中学生が高校生になり、新しい友達と一緒に来て楽しい時間を過ごしています。

他にも、土曜日も朝 10 時から部活動の合間を縫って遊びに来ています。のんびりしながら、ガールズトークをし、自分の部屋のような感覚で利用しています。時には、職員もガールズトークに寄り、子どもたちの「今」流行していることなどを知る機会にもなっています。

時には一人で…

はじめは友達と一緒に利用し、自分の居場所になると「ここに来たら、誰かいるかも!」と一人で、ふらっと来てくれます。職員を相手に、バスケットボールや卓球をするのですが、友達と楽しんでいる時とは少し違って、日頃の愚痴なども…ポロっと。

一人っ子で、親の帰りを家で待っているより、職員と話をしながら知っている場所で過ごしたいと利用している中学生もいます。

その他の児童館活用方法

- ・乳幼児親子が、友達と一緒に遊べる場所です。
- ・乳幼児親子・小学生・中学生や地域の方々と一緒に遊べ、知り合える場所です。
- ・子育て相談(児童館が各専門機関へご紹介をします。)
- ・学童クラブなど

中には、きょうだいの面倒を見るのに疲れ、自分だけの時間を満喫してリフレッシュをしている様子があります。職員とゆっくりとした時間を過ごすことで、親にも友達にも話づらい自分の気持ちを、言える居場所になっています。

気軽な利用が居場所としての 定着に繋がっています

「自分たちだけの気兼ねなく使える自由な場所!」時間を見つけては利用して、職員や利用している小学生・中学生・高校生と馴染みになって、中には児童館の行事のボランティアスタッフとして活躍する中高生もいます。

「久しぶりに、ちょっと寄ってみよかな!」「雨が降っていく場所がないからな。」「少し話がしたいな…」と、みんなの居場所になっています。一人でも・みんなと一緒に「どこに行こうかな?」と困った時は、気軽に児童館に遊びに来てください!!



おわりに

一人ひとりにとって安心できる、開かれた居場所を紹介しました。いかがでしたか。一口に「居場所」といっても、その意味や可能性は様々で、その場に集う方々が生み出しています。「ところで、私たちの居場所のリノベーションはどうすれば?」と考えておられる方は、一度、市社協や最寄りの区社協までご相談ください。一緒に、これからの地域の居場所を考えましょう!

思いを語り、 受けとめる

思いを聴く～当事者・当事者家族の思い～

他人事ではなく、 自分事に

同じ依存症でも、実際に悩んでいる方の背景はさまざま、多くの要素が絡み合っていると改めて感じました。「依存症」は特別なものではなく、自分の近くにも悩んでいる方がいることに気付いていただくきっかけになればと思います。

5月テーマ：アルコール依存症
ゲストスピーカー 榎原 節子氏
NPO法人京都マック 施設長



5月の講座の様子

前向きに楽しく、 出会いを大切に

自分にはできることがまだまだあるので、それらを大事にしながら、前を向いて過ごしていきたいです。また、認知症の方や生きづらさを抱える方へ、前向きに楽しく、出会いを大切にしてお過ごしができるメッセージを伝えることができれば嬉しいです。

7月テーマ：若年性認知症
ゲストスピーカー 下坂 厚氏
おれんじサロン ひと・まち
(若年性認知症本人交流会)
ピアサポーター



7月の講座での
グラフィック
レコーディング

「来てよかった」と感じる講座へ

何かを発したい人は発することができ、聴きたい人は聴くことができる、そして、全ての方が「来てよかった」と感じられる講座にしたいです。そのために、一人一人が求めておられるものを感じとることと、ゲストの方と参加者の方が対等な関係で参加できる場づくりを意識しています。

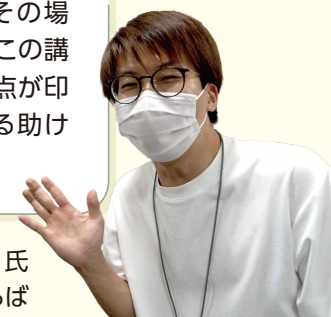


photo by 下坂 厚

ファシリテーター 白水 育世氏
精神保健福祉士・キャリアコンサルタント

その場所で生まれる声を大切に

グラフィックレコーディングは、今生まれた言葉を拾いあげ、情報の整理を行うことで、その場の流れや熱量を共有することができます。この講座では、リアルな感情や声も生まれてくる点が印象的なので、今後もそうした思いを発する助けになればと考えています。



ファシリテーショングラフィッカー 三宅 正太氏
NPO法人山科醍醐こどものひろば

目の前の方の思いを真剣に考える

ゲストの方の人生に触れると、そこにはそれぞれ共感できる思いや経験があれば、その方にしか分からないものもあると気付きます。「当事者」という言葉にとらわれずに、目の前の方と真剣に向き合うことの大切さを感じていただける講座です。ぜひご参加ください。

お申込・お問い合わせ先
京都市福祉ボランティアセンター
TEL 075-354-8735

思いを聴く
～当事者・当事者家族の思い～
今後のスケジュール・申込先 ▶



認知症になっても
安心して暮らせるまちづくりを

認知症サポーター 養成講座

認知症の人への偏見をなくし、認知症の人とともに誰もが安心して暮らせるまちづくりに向けた取組のひとつとして、認知症について学ぶ認知症サポーター養成講座があります。ぜひご利用ください。



当事者の下坂厚さんと一緒に実施した養成講座

● 受講生の感想

「これからは、認知症の人に自分が何かをしてあげるのではなく、認知症の人と一緒に何かをする気持ちで寄り添いたい。」

「認知症を抱える人の目線で考えることで、認知症をより身近に感じました。」

「認知症があってもなくても、その人はその人自身であることに気づけた。」

講座時間：原則 90 分間

対 象：京都市在住、在勤の方
費 用：無料

お申込・お問い合わせ先
京都市長寿すこやかセンター
TEL 075-354-8741

京都市福祉
ボランティアセンター

市内のボランティア・福祉活動に関する相談や備品等の貸出、講座の開催等を行っています。 <http://v.hitomachi-kyoto.jp/>



京都市長寿
すこやかセンター

住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らすことができるよう、高齢者に関するご相談（生きがいづくり、認知症、成年後見制度、生活、介護）に応じるとともに、役立つ知識が得られる講座等を開催しています。 <http://sukoyaka.hitomachi-kyoto.jp/>



福祉事業を始めるなら

賠償責任保険は必須です！

福祉事業者総合補償制度
「まごころワイド」をおすすめします。

充実の賠償責任補償制度、
安価な傷害見舞金補償制度など
必要なプランを組み合わせでご加入いただけます。

福祉専門チームによる安心の事故対応、京都市社会福祉協議会、京都府社会福祉協議会が提供する福祉の現場に合った内容です。

詳しい補償内容はこちらまで

福祉の保険「まごころワイド」取扱代理店

京都の総合
保険代理店 **SRM 株式会社 エスアールエム**

専用TEL **075-255-0883**

福祉の保険
ホームページ **www.srm-net.co.jp/**

引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

この広告は保険の特徴を説明したものです。

詳しくは商品パンフレットをご覧ください。

ボランティア活動には「ボランティア保険」
イベントを開催されるときには「福祉行事保険」も併せてご利用ください。

メガネのお悩み何でもご相談ください

「手持ちのメガネがぼやけて見えにくい」、「パソコン、スマホを使うと目が疲れる」、「紫外線が心配」、「メガネがすぐずれてしまう」など、何でもご相談ください。様々な用途に合わせたレンズ・フレームをご提案いたします。

定番のセット商品も
あります！

メガネ2本セット (レンズ付き)
近視 遠視 乱視 老視 **¥6,800**より

両用メガネセット (レンズ付き)
遠近 中近 近々 **¥9,800**より

●営業時間 全店10:00～19:00[全店水曜日定休] @ogiopicart



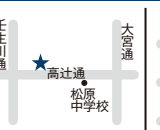
北大路店
075-417-3154
堀川北大路西へ100m



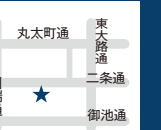
中立売店
075-441-3571
大宮中立売西へ50m



円町店
075-803-2880
西大路太子道バス停前



大宮高辻店
075-803-1722
大宮高辻西へ100m



東山二条店
075-762-1115
東山二条西へ100m

Optic art
オブティック・アート

眼鏡卸売

※各種クレジットカードご利用頂けます。

<https://www.oa-ogi.jp> オブティックアート 検索

くらしの“あんしん”を応援！ 地域生活を支えています

日常生活自立支援事業・生活支援員募集中

認知症や知的障害・精神障害などで、一人で判断することに不安のある方を対象に、福祉サービス利用のお手伝い・家計相談などを通じて、暮らしをサポートする日常生活自立支援事業を実施しています。
ここでは実際に活動されている「生活支援員」の声ををご紹介します。

支援員の声

支援員Aさんはこんな方

退職後、地域の活動に携わりたいと思っていた折に、市民しんぶんでは生活支援員の募集を知り養成研修会に参加。活動を始めた。

利用者に寄り添う支援

利用者は、病気や障害で人と関わるのが苦手な方、読み書き計算が難しい方など様々で生活習慣も十人十色です。

その方の思いや生活の様子を知り、それぞれに合わせて支援するよう心がけています。生き方や価値観を尊重し、接し方を考えるのは勉強になります。支援時に生活状況に変化があれば、社協職員に伝え、指示を仰いで対応しています。

利用者の自信に繋がる、変化を見守る支援

利用者が安心して自分の思いを語れる関係づくりを心がけています。

金銭管理の支援では、お金の使い途や的確な買い物の仕方をご助言する中で、徐々に計画的にお金を使えるようになる方もいらっしゃいます。

家に籠りがちな利用者から、「本当は仕事とかなんかせなあかんと思って…」とお聞きしたので、社協職員に伝えたら、その人に合った居場所やボランティア活動など外出するきっかけにつながりました。

支援員をやってみて

利用者の「できること」が増えていく様子を見た時や、利用者の笑顔に触れた時は、すごくやりがいを感じます。

やってみませんか 「生活支援員」

支援員が支援の中で気づいた様々な情報は、社協職員が利用者の希望や必要なサービスを把握し、支援につなげるうえでとても重要です。くらしの“あんしん”を応援する生活支援員の活動にご興味のある方は、ぜひお問い合わせください。

お問い合わせ先
生活支援部
TEL 075-354-8734
FAX 075-354-8737

生活支援部

社会的支援を必要とする人の生活を支援するため、上記事業以外に、離職等（同程度の状況含む）で生活が困窮する世帯の住居を確保する「住居確保給付金事業」、低所得者や高齢者・障害者の生活を経済的に支える「生活福祉資金貸付事業」を実施しています。

放置自転車のない快適で安全な街の実現を目指して。



マナーアップフェスタを通じて、正しく自転車を乗ってもらうようになり、正しく自転車を利用してもらうことで、快適で安全な街を実現します。

Archi M s
アーキエムズ



地域貢献につながる「地域協働セミナー」

学びを活かして職場実践

社会福祉研修・介護実習普及センターで実施している地域協働セミナーを受講された訪問介護まごのて一条の福田さんと北川さんに、職場でどのように学びを活かされたかを伺いました。

管理者の北川さんは、地域貢献をしたいと強く思っておられました。その思いを受けて、スタッフの福田さんがセミナーを受講し、学んだことを活かして区社協や学区会長、近所の駄菓子屋等と連携されました。

事業所のガレージにベンチや黒板を設置したことで、駄菓子屋で買い物をした子どもたちが集ったり、黒板に絵を描く等、地域住民の居場所となりました。

地域協働セミナーでは、施設と関係団体、地域住民との連携の仕方などが学べます。ぜひ当センターの研修をご活用ください。

研修情報はこちら▶

みやこけんしゅう

検索



自由に落書きができる黒板は地域の人気スポットに

社会福祉研修・
介護実習普及センター

京都市内の社会福祉施設・団体職員を対象に、組織運営や援助技術、介護技術、認知症介護について研修を実施し、職員のサービスの質の向上に努めています。市民向け介護講座も実施しています。

「ひと・まち交流館 京都」の開館時間と使用料が変わりました

● 開館時間の変更

変更前 午前9時00分～午後9時30分
変更後 午前9時00分～**午後9時00分**



※各センターについては
日・祝日
午前9時00分～
午後5時00分

● 会議室等の改定後の使用料

(円)

	午前	午後	夜間
大会議室	14,140	18,850	21,210
第1～第3会議室	1,170	1,570	1,760
第4・第5会議室	3,060	4,080	4,590
和室A・B	470	620	700

※1部屋1区分当たりの使用料です。※その他詳細はお問い合わせください。

会議室予約専用電話：075-354-8719（受付：午前9時 00 分～午後5時 00 分）

ひと・まち交流館 京都
管理部

一般会議室の貸出しは、設置目的に合致する活動のための利用に限り貸出しいたします。営利、政治、宗教活動など他の利用者や市民に迷惑となると思われる場合は、使用をお断りいたします。ひと・まち交流館 京都：075-354-8711



歴史ある大本山

東福寺

永代供養塔「結縁之塔」受付センター

0120-696-000

秋のお墓 お彼岸 無料見学・仏事相談会

8月27日(土)～9月25日(日)

宗旨・宗派 不問 ◆ご見学・資料請求はお電話にて◆

永代供養塔

お墓が遠方にありお参りに行けない

子孫に負担をかけたくない

お寺との付き合いが面倒(寄付金等)

跡継ぎがいらない管理できなくて大変

お墓を建立したくない

永代供養塔「ともし碑」受付センター

0120-153-594

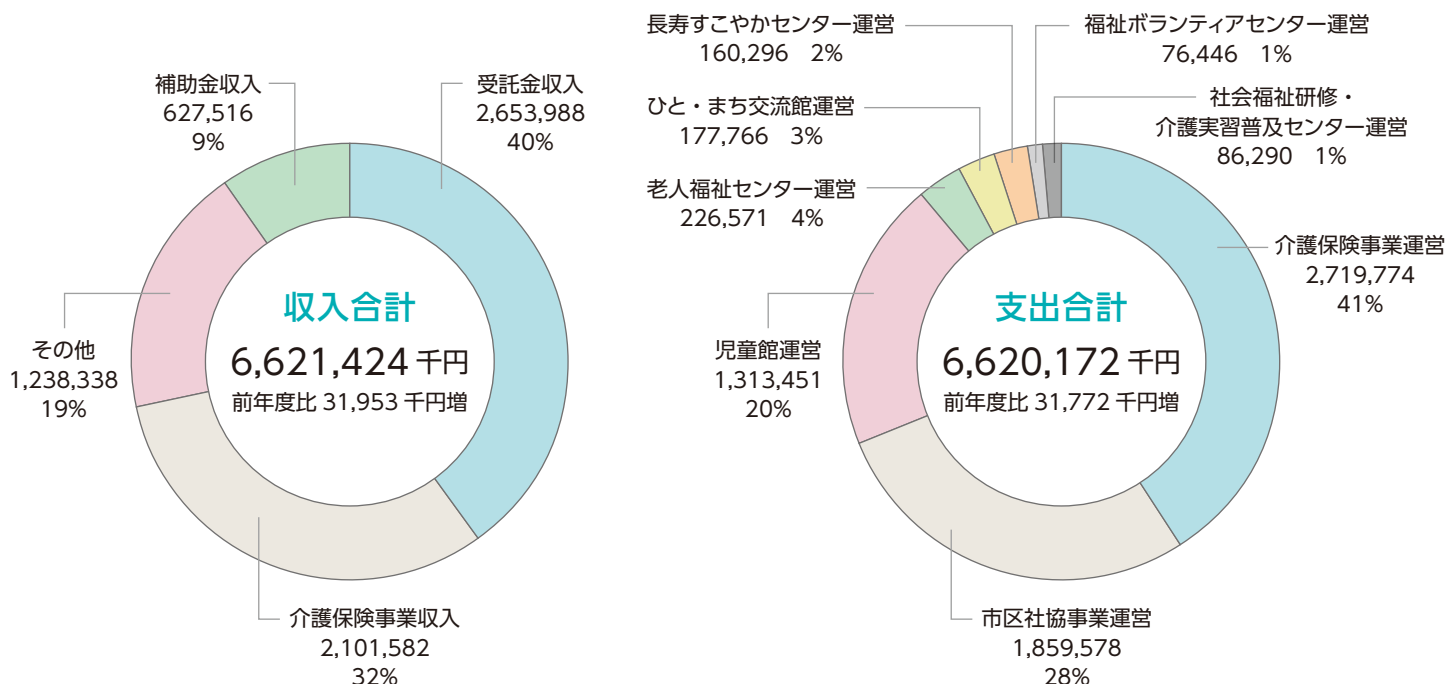
南禅寺 塔頭 帰雲院

お電話でも無料相談受付中

(株)大琳 〒602-0822 京都市上京区河原町今出川上ル青龍町234番地 TEL.075-257-5511

令和3年度 決算報告

※収支差額は繰越。その他事業の詳しい内容や決算の詳細は、本会ホームページをご覧ください。（単位：千円）



令和4年度 事業計画

令和4年度は、市・区・学区社協の三層の連携と、民生委員をはじめ関係機関、団体、施設等との協働のもと「共に生きる福祉のまち『京都』の実現」を目指し、以下の重点目標を推進します。

推進計画の着実な実行

- 計画期間中間年としてコロナ禍の新たな課題を踏まえた推進計画の見直し

住民主体の地域福祉活動の促進

- 創意工夫による継続的な活動支援
- 生きづらさを抱えた方の理解と社会参加の創出

質の高い生活支援やサービス等の充実

- 寄り添い支援や当事者の参加支援
- 地域福祉の拠点としての事業所のサービス提供

公益的使命に応える取組の推進

- ネットワークを活かした地域課題の解決
- 職員間の連携や協働、公益的取組の推進

持続可能な法人運営

- 市行財政改革への対応、指定管理事業の見直し
- 徹底した経費削減、財政収支バランスの均衡化
- 働き方改革、職員研修等による人材育成・定着



福祉のまちづくり 187号 2022年8月31日発行

発行／社会福祉法人 京都市社会福祉協議会

TEL. 075-354-8731 FAX. 075-354-8736

ホームページで京都市社協の活動を映像でご覧いただけます。
携帯電話でも右のQRコードから簡単アクセス!



京都市社協



〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
(河原町五条下る東側)「ひと・まち交流館 京都」

〔発行人〕小石玖三主 〔編集人〕芳賀正昭 〔編集協力〕IG株式会社



京都市社会福祉協議会では、京都市における環境負荷の管理・低減の規格であるKESステップ2を認証取得し、環境負荷軽減に努めています。



この広報誌は一部
共同募金の配分金
で発行しています。

